

技術・家庭科(家庭分野)授業案

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀池, 美衣 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00029570

技術・家庭科（家庭分野）授業案

授業者 堀池美衣

- 1 日時 令和3年10月14日（木） 第2時 10：10～11：00
- 2 学級 1年B組（被服室）
- 3 題材名 お弁当箱につまっているものから考える消費行動

4 本題材で願う学び

弁当ができてあがるまでの過程にかかわる様々な人の存在やその人の思いを知り、食品や食べることについてとらえ直すことで、身の回りのものについて改めて目を向けながら自分自身のこれからの消費行動について考えをもつことができる

【学習指導要領との関連：C 消費生活・環境 (2)ア、イ】

5 題材観

(1) これまでの子どもたちの学び

小学校の社会科では、身近な地域で生産や販売に携わっている人々の仕事や、日本の農業や水産業について学んでいる。その中で子どもたちは、生産者や販売者から直接話を聞くなどして、思いやこだわりをもって自分たちの生活を支えてくれている人がいることを理解してきたことだろう。中学校の家庭分野の授業で、日々繰り返している「食べる」という行動について振り返った際には、子どもたちから「食事を作ってくれる親や、食べ物を毎日当たり前食べられることに感謝したい」などという発言があった。このことから、食べることを支えている人の存在に気づくことができていると言えるだろう。

消費生活については、小学校の家庭科で身近な物の選び方について扱っている。子どもたちは、自分が使うことを想定して、購入しようとしている物は本当に必要か、十分活用できるかなどについて考えることや、価格、分量、環境や安全などの視点から情報を収集したり整理したりすることが大切であるということ学んでいる。

このように、社会生活や人々のつながりなどについて知ったり、自分の力でできることを増やしたりしてきた子どもたちが、ものと人を結びつけながら改めて自分の食生活を見直すことで、自分も他の誰かも豊かになるような消費行動へとつなげていくのではないかと考えた。

(2) 「三方よし」の消費行動

東日本大震災後や新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下などにおいて、世の中では「買って応援」という動きが見られた。これは消費者が、自分以外の誰かや地域や社会を意識して、「応援しています」「頑張ってもらいたい」という意思を表明し、生産者の

仕事や生活を支えたり、地域の復興に協力したりしようとする行動であると言える。非常事態に陥り、様々な人の思いが浮き彫りになったことでこのような動きが見られたのではないだろうか。

他者や社会を意識した行動は、購入すること以外にも考えられる。例えば、購入したものを大切に使用したり食べたりすることは、食品ロスの削減や、環境に配慮した生活、持続可能な社会の構築を考えた行動につながっていくだろう。

このように、目の前にあるものに対してかかわる人の存在を意識した消費行動ができるようになれば、自分だけでなく、他者の生活や社会がよりよく変わることにつながっていくだろう。このような、自分も他者も社会もよりよくなる消費行動は「三方よし」の消費行動と言えるのではないだろうか。

(3) 「お弁当」がもつ可能性

お弁当は、限られたスペースに様々な食品が詰められており、作ってからある程度の時間が経った後に食べることを想定したものである。何をどのような配置で、どのくらいの割合でつめるかなどは作り手次第であり、栄養バランスや調理方法、食中毒対策などの視点からよりよいお弁当を追求することができる。また、作る相手を決めてお弁当を考えれば、相手に思いを伝える工夫も加えることができる。このようにお弁当は、作り手の立場で工夫する余地があると言える。

一方、「お弁当をどのように作るか」ではなく、「お弁当がどのようにできあがってきたか」に焦点を当てて見直してみると、食品の背景にある人々の営みに目を向けることになり、生産にかかわる人、流通にかかわる人、加工や調理にかかわる人の存在があることに気づくことができる。そのように考えると、お弁当は様々な人がかかわってできているものであるととらえるこ

とができるだろう。とらえ方が広がることで、自分の食べ方や食品の選び方を振り返る機会となり、食に関する問題について考えることもできる。

また、一言でお弁当と言っても多種多様であり、作り手や購入場所によって、かかわる人やものが異なる。同じお弁当でも違いがあることがわかれば、他のものの背景についても興味をもち、知りたいと思うようになると思う。

このように、子どもたちにとってかかわりの深いお弁当を切り口にするすることで、ものと人を結びつけ、自分と他者や社会とのつながりを感じながらこれからの消費生活を考えることができるのではないだろうか。

(4) お弁当から見えるもの

例えば、手作りのお弁当に鶏肉の唐揚げが入っていたとする。家で調理した唐揚げならば、スーパーなどで鶏肉を購入したはずである。鶏肉と言っても、店頭にはいくつかの種類が並んでいる。その中から、価格、分量、部位、産地や生産者などを見て、きっと意図をもって選んでいるのだろう。さらに店頭に並ぶまでの過程を遡ってみると、スーパーまで配達している人、食肉加工を行っている人、養鶏場で育てている人などが存在している。もしお弁当に入っている唐揚げが、冷凍食品のものだとしたら、味や製法などに対するこだわりが異なるいくつかのメーカーの中から選んで購入してきただろう。そのメーカーの元に材料が届くまでの過程にも、生産や流通にかかわる人々が存在している。加えて、他社との競争を勝ち抜くために商品開発に尽力している人々の存在も欠かすことはできない。材料の仕入れに関して言えば、メーカーも消費者であると言える。自社のこだわりを実現するために最適なものを安定的に仕入れる必要があるため、私たち消費者とは異なる視点で選んでいることが考えられる。

このように、お弁当が自分の手元に届くまでの過程をたどりながら、かかわっている人を挙げていくと、非常に多くの人がつないできたものであることに気づくことができる。

(5) 生産や流通などにかかわる人々の思い

それでは、生産、流通、加工や調理にかかわる人々は、一体どのような思いをもって食と向き合っているのだろうか。

例えば、生産者の中には有機栽培にこだわっている人もいれば、ハウス栽培をする人や工場生産している人々もいる。他にも、品種改良に取り組んでいる人、伝統野菜を作っている人、食品に愛情を込めて育てている人など、例を挙げればきりがなく様々な生産

者がいる。このような人々の営みからは「安心で安全なものを届けたい」「一年中、安定して食卓に届けたい」「よりおいしいものを食べてほしい」「伝統野菜を多くの人に知ってほしい」などの思いがあることが推察される。そしてその思いは、生産者それぞれに異なっているはずである。流通、加工や調理にかかわる人も同様に、「生産者の思いと消費者の思いがどちらも叶うようにしたい」とコンセプトをもって場を提供している人がいたり、「生産者が作ったもののよさを最大限に引き出そう」と思って調理にあたっている人がいたりする。食にかかわる人の数だけ思いがあると言っても過言ではないだろう。

このような思いは、普段私たちの目に見えにくいものである。しかし、食にかかわる人々の営みから思いを推察すると、身の回りには食品は全て、様々な人の思いが詰まっているものであるととらえることができるだろう。

(6) 本題材で願う子どもの姿

本題材では、お弁当ができあがるまでの過程にかかわっている人たちの思いを知ることで、身の回りのものであるととらえ直し、これからの消費行動について考えをもつ子どもたちの姿を願っている。ここで言う「消費行動」とは、ものを購入する場面はもちろん、例えば食品の保存や調理、食事などのように、購入後の行動も含めてとらえている。

子どもたちは、一見すると同じようなお弁当が入っているお弁当でも、できあがるまでの過程やかかわっている人が異なることに気づいたり、生産や流通などにかかわる人の様々な思いにふれたりすることで、普段当たり前のように目にしているもののとらえ方が広がっていくと考える。そして自分の消費行動を振り返り、目の前に見えるもの自体や価格だけでなくその背景にも目を向け、消費者としてどのようなことを大切にしたいかについて考えていくだろう。そして仲間と対話をしながら、様々な消費行動の場面で、自分も他の誰かも、地域や社会も豊かになるような「三方よし」の消費行動に向けて中学生の自分たちにできることを見いだしていく姿に期待したい。

6 題材構想（全6時間）

- (1) 私流お弁当の選び方（1時間）
- (2) お弁当物語をひもとく（4時間：本時はその4）
- (3) 「三方よし」の消費行動に向かって（1時間）

(1) 私流お弁当の選び方（1時間）

授業者は、共通のおかずが入った、コンセプトの異なるお弁当を提示し、自分が食べるならどのお弁当を購入するか問いかける。子どもたちは、価格、栄養バランスや彩りなどの視点でお弁当を比較しながら以下のように発言するだろう。

- ・自分で買うなら、安いのが一番だ。
- ・中学生は成長期なので、たくさん食べる方がよい。安くて量も多いAがよいだろう。
- ・Aは野菜が少なく、栄養バランスが悪そうだ。食品の種類が多いBがよいだろう。
- ・Bは健康なお弁当かもしれないが、自分にはあまりおいしそうに見えない。味が薄そうだ。
- ・味は薄そうだが、食品添加物などの人工的なものはあまり含まれていないので、安心して食べることができそうだ。
- ・好きなおかずの量が多いので、価格は少し高いがCにしよう。
- ・Cがよいが、価格が高い。もう少し安くならないのか。
- ・国産のものを使っているから、高いのは仕方がない。
- ・一度に大量の調理をすれば手間が省けて安くできるが、一つ一つ手作りしていると高くなってしまっているのではないかな。

など

子どもたちがお弁当の価格の違いや、できあがるまでの過程に注目し始めたところで、授業者は「お弁当はどのようにできあがってきたのだろうか」と問いかける。子どもたちは、お弁当ができるまでの過程を遡りながら、以下のように発言すると予想される。

- ・そもそも材料となるものが必要だ。作物を生産する人がいなければ、材料を手に入れることができない。
- ・日本は食料自給率が低いと聞いたことがある。外国からの輸入に頼っているということだ。
- ・最近では、野菜も工場で作られている。
- ・加工食品を作る工程を映像で見たことがあるが、

最終チェックを人がしていた。工場で生産していると言っても、必ず人の手が加わっているのではないかな。

- ・小学校では、給食室で一度に大量の調理をしていて、栄養バランスを考えている人もいた。
- ・献立を立てる人はとても大変だろう。
- ・お弁当のコンセプトを考える人もいるはずだ。
- ・一つのお弁当ができるまでには、多くの人がかかわっている。
- ・同じ「お弁当」でも、作る人や買う場所によってかかわる人は異なる。その違いがお弁当の価格などの違いにつながっているのではないかな。

など

子どもたちは、一つのお弁当ができるまでに様々な人の手が加わっていることや、お弁当の種類によって選ばれる材料や調理方法が異なることを知り、かかわっている人の違いによってお弁当に使われている食品や価格に差が生じることに気づいていこう。授業者は、子どもたちの発言を板書しながら、お弁当ができあがるまでにかかわっている人の立場を整理していく。そして、お弁当ができあがるまでにかかわっている人について調べていくことを提案して次時につなげる。

(2) お弁当物語をひもとく（4時間：本時はその4）

お弁当に携わる様々な立場の人の存在に気づいた子どもたちに、授業者は「生産、流通、加工・調理という視点でお弁当を分析してみよう」となげかける。子どもたちはこの三つの立場にわかれ、インターネットなどを使って個人追求をしていく。それぞれの人がどのようにお弁当に携わっているかということについて、子どもたちは以下のように追求していこう。

【生産にかかわる人について】

- ・今まで知らなかったが、自分の住んでいる地域にある〇〇農園は、無農薬栽培をしていることがわかった。
- ・最近では、インターネットを活用して、生産したものを消費者に直接届けている人も多い。
- ・生産者のこだわりを動画で発信している人がいた。自分たちの知らないところにも手間がかかっている

て驚いた。

【流通にかかわる人について】

- ・生産者と店舗や企業などをつないでいるから、自分たちとはかかわりが少ない。
- ・インターネットで産地から直送すると、仲介する人が少なくなってしまうのではないか。どのように思っているのだろう。
- ・宅配サービスで、店舗から消費者に届けている人も流通にかかわっていると考えると、意外と身近に感じられる。

【加工・調理にかかわる人について】

- ・売るための努力や工夫に多くの時間をかけている人たちがいるとわかった。
- ・消費者の声をもとに常に商品を改善している。
- ・製造業者の大切にしていることによって、材料となる食品の産地や農家の選び方に違いがありそうだ。

など

具体的にどのような人がお弁当に携わっているのかを調べていくと、子どもたちは様々な人々が思いをもっていることに気づくだろう。そこで授業者は「食に携わる人々が抱えている思いを探ろう」となげかけ、さらに追求を進めていくこととする。その際、子どもたちが追求したい内容に応じた資料や動画を示したり、インタビューなどの機会を設けたりして、可能な限り人々の声を聞くことができるようにする。個人追求を通して、それぞれの立場の人々の思いにふれた子どもたちは、以下のような考えをもつようになるだろう。

【生産にかかわる人の思い】

- ・自分の子どものように手間も時間もかけて育てているのだから、廃棄することになったときに辛いのは当然だ。
- ・自分たちは生産者のことを考えたことがなかったが、生産者は消費者のことを考えていることがわかった。
- ・普段口にしてるものに興味をもってほしいという思いから情報を発信していると言っていた。自分たちはそれを知らうとすることが大切ではないか。

【流通にかかわる人の思い】

- ・流通には生産者と消費者をつなぐ役割がある。トラックの運転手の「新鮮なものを早く届けよう」

という気持ちは、生産者と消費者の両方の思いを大切にしていると感じた。

- ・作ったものを運んでいるだけでなく、生産者の思いも運んでいるのかもしれない。
- ・今まで流通にかかわる人の存在を感じたことはなかったが、このような人がいるから自分たちは食べることができるのだとわかった。

【加工・調理にかかわる人の思い】

- ・材料の選び方も食品の作り方も、何を大切にしているかが土台になっている。
- ・売り上げも出さなければならぬので、コストも含めて様々なことを考えたうえで商品ができていると知った。商品は努力の結晶だ。
- ・「生産者のため」という思いをもってお弁当を作っている人がいて、「消費者のため」だけではいけないのだと感じた。

など

子どもたちは追求する中で、「生産」「流通」「加工・調理」の立場が互いに関連し合っていることを改めて感じるだろう。そこで、それぞれの立場から見いだしたことを共有する時間を設ける。子どもたちは以下のような対話をしていくと考えられる。

- ・生産者は、作物を大切に育ててきているため、おいしく調理しておいしく食べてほしいと思っているはずだ。
- ・おいしく食べてほしいという思いは、加工や調理をしている人も同様だ。試行錯誤した結果が商品だと思うと、感謝して食べなければいけない気がした。
- ・どこかでつながりが途切れたら自分たちの手元には届かないということだ。いつも当たり前のように食べているが、当たり前ではないのかもしれない。
- ・一つのものができるまでに、どれほど多くの人か思いをもってかかわっているかがわかった。それぞれのこだわりがある分、価格が高くなるのは仕方ないと思うようになった。
- ・食品にかかわる人たちの存在を意識すると、価格が安すぎると感じることもある。
- ・利益を出さなくてはならないけれど、高過ぎると買ってもらえない。きっといろいろなことを考えたうえでの価格設定なのだろう。
- ・価格もそうだが、仕入先や販売方法なども、その人たちのこだわりや意図によって決められている。

- ・思いを知ると、食べ物を残したりものを大切に扱わなかったりするのはいくつかの気持ちになる。自分たちも消費者として好きなものを買うだけでなく、生産者たちのことを考える必要があるのではないか。
- ・例えば、スーパーで地元の生産者のものを購入するなど、地産地消を意識するとよいのではないか。
- ・毎回、誰かのことを考えて買うのは無理なのではないか。自分が好きなものを買いたいと思うし、使うことができる金額にも限りがある。
- ・確かに毎日使うものは価格や安い方がよい。
- ・毎回でなくても、自分にできることを考えて、できるときにできる範囲で実践していけばよいのではないか。

など

子どもたちが食にかかわる人々を意識した行動について考え始めたところで、授業者は「消費者としてどのようなことを大切にしたらよいだらう」と問いかけ、次時の語り合いにつなげる。

(3) 「三方よし」の消費行動に向かって（1時間）

追求を通して考えたことを語り合う1時間とする。子どもたちがどのように身の回りのものをとらえるようになったのか、消費者としてどのようなことを大切にしていきたいのかなどについて、以下のように考えを伝え合うだろう。

- ・今まであまり考えずに買って来たが、様々な人の立場を考えて買うことが大切だとわかった。
- ・自分にとっては安さも大切だが、これからは価格の理由も考えて買いたい。
- ・知ってから買うことが大切だと思った。例えば生産者を知っていれば安心するし、自分がほしいものを買うことができる。表示を見たり情報を得たりして納得した買い方をしたい。
- ・自分はやはり、おいしいものや好きなものを買いたい。しかし、かかわっている人の存在は忘れな

- いようにしたい。
- ・生産者を知ると、その人のところから買いたいと思うようになり、それが地産地消につながるのではないか。
- ・いつも県内や国内で生産されたものを買うことは、経済的に考えて難しい。しかし、特別なときは選んでみてもいいかもしれない。
- ・被災者や感染症の影響を受けた人たちを応援するキャンペーンなどもあるので、自分もその地域のものを買うことで力になりたい。
- ・明日からものを買うときには、自分が買うことによって誰に影響を与えるのかを少し考えてから買うようにしたい。
- ・全てのものに人の存在があると思うと、その人たちに感謝したくなった。かかわっている人を思い浮かべながら「ありがとう」「いただきます」と言いたい。
- ・生産者のことを考えると、ただたくさん買うよりも、丁寧に使ったり感謝して食べたりすることが大切なのではないか。
- ・買ったものを大切にすることが感謝することになるのではないか。環境を守ることもつながるので、買った後のことも意識する必要があるだろう。
- ・今回の学習は、食生活に限らず身の回りにあるものすべてのものに言えることだと思う。「今までよりも少しだけ丁寧に」を意識して生活していきたい。

など

授業者は子どもたちの発言を場面ごとに分類しながら板書する。これにより、子どもたちが様々な場面で自分にできそうなことを具体的に考えることができ、実際の生活の中で行動に移すようになっていくと考える。本題材を通して、子どもたちのものや社会を見る目が育まれ、よりよく生活していこうとする姿を願うとともに、「三方よし」の消費行動が広まった社会を思い描いて題材を終える。

参考文献：おかべたかし 文、山出高士 写真（2017）『くらべる値段』東京書籍

参考資料：FNNプライムオンライン「農家泣く泣く廃棄の決断 出荷1箱14本で10円以下」

<https://www.youtube.com/watch?v=sfrB9vOemRA>

SBSnews6「新型コロナ 収入がゼロに 休校が給食業者を直撃」

https://www.youtube.com/watch?v=z_dZlxJyEWE